

共働き家族で考えるワークライフスタイル

A Work-Life-Style for Parents Career Family

佐藤 香織 (さとう かおり)

ジャパンホームシールド (株)

1. 土への興味が仕事になるまで

私は子どもの頃から土に興味がありました。育った環境によるものが大きいと思います。そして、高校時代に出会った恩師が私を地質学へ導きました。

私は首都圏の郊外にある新興住宅地で育ちました。住んできた地域は台地・丘陵と低地にまたがっていて、地形が起伏に富んでいます。住宅地の周りに自然が多く残っている一方で、住んでいる住宅地の隣では大規模な土地改変が行われていました。当時お転婆で活発だった私は、近所の子もたちと一緒に、住宅地の端から端まで、ある時には住宅地に隣接した工事現場の近くまで、自転車で行っていました。切土主体の工事現場が多く、地面の下を見る機会が多くありました。

私が住んでいた住宅地周辺には、あちこちに崖がありました。崖は子どもたちの遊び場でした。崖を眺める度に、地層が作り出す縞々模様が綺麗と感じていたのを覚えています。土にはいろんな遊び方があります。崖があれば崖に登る、崖をほじくる、粘土があれば泥団子を作る、崖下の崩積土から磁石で砂鉄を取る、粗い砂を黒い粒と透明な粒に分ける、砂の中から貝殻を探すなどです。私にとって、土は身近な存在でした。

高校時代は地学同好会に入っていました。顧問には、天文観測が趣味の先生と地質に詳しい先生がいました。合宿で、山の上で星の観測を行ったことや、化石の採取に出かけたことを覚えています。私はどちらも興味があり、課外活動を含めて楽しい高校生活を送りました。大学を選ぶ時に、先生が地質を学べる学科を勧めてきたため、その大学へ進学を決めました。



写真-1 大学の野外実習の様子

大学は実習が多かった印象があります。毎月巡検があり長期の休みには合宿形式の野外実習(写真-1)がありました。地形や地質について野外で学ぶ事が多く、後の仕事に大きく関わることになりました。大学卒業後は建設・地質コンサルを経て現在の会社へ入社しました。大学までは理学としての地形や地質を学びましたが、会社に入ってから工学として地盤を扱うこととなります。

2. 私の仕事

私は戸建住宅やアパートといった小規模建築物の地盤を評価する業務を行っています。住宅の地盤はスウェーデン式サウンディング試験(以下、SWS試験)により調査を行いますが、可能であればボーリング調査を行う事があります。ボーリング調査や土質試験などの詳細調査を行うと、より精度の高い地盤の評価ができますが、コストの面から毎回詳細調査を行うことは困難です。SWS試験は簡易な試験の為、限られた情報しかありませんが、地形や地質を反映したデータが得られます。SWS試験から地盤を正當に評価するためには、得られたデータがどんな地質を反映しているのかを推測することが必要です。地域的な地盤特性を知る必要があり、日々知識の習得が欠かせません。

また、住宅フェア等の展示場で一般のお客様に地盤や土について話をすることや、ハウスメーカーに訪問して地盤に関する勉強会の講師(写真-2)を務めることもあります。人前で地盤の話をする事は自分自身の勉強の機会になります。「地盤」を語るためには、土木・地形・地質・建物の基礎等の幅広い知識が必要となります。



写真-2 展示場で土壌モノリスの解説員として参加(筆者は一番右下)

3. 我家の子育て事情

私は男の子2人と夫、夫の母の計5人で生活しています。子どもは小学生と保育園に通っており、保育園の迎のため、私は現在1時間の時間短縮勤務としています(図-1参照)。夫は朝遅く、帰りも遅い勤務時間であり、朝の保育園の送りは夫の仕事としています。同居している義母には、以前に保育園の迎えをお願いしていましたが、迎えの最中に転倒して怪我をしたこともあり、荷物の多い保育園の送迎を任せることはできません。上の子の学童ルームが家から徒歩数分のため、現在は義母の要望で学童ルームへのお迎えをお願いしています。

自宅から会社までの通勤に1時間半はかかり、電車やバスの乗り継ぎの時間を考慮すると、時間厳守で会社を出ないと保育園の迎えの時間に間に合いません。そのため、勤務時間中は「時間」を意識して、集中して業務をこなしているつもりです。私が会社を出てから、自分宛の問い合わせがあるため、その対応は同僚に任せています。早く帰ることに罪悪感がありますが、保育園の迎えを誰にも頼めないのが現状です。切羽詰まっている私の状況を察してくれている、同僚と上司の温かい対応に感謝をしています。

4. ワーキングマザーの現実

我家は母親に家事・育児偏重の生活であり、これからの共働き家族にお奨めできるものではありません。会社では時間の制約があるために思う存分に仕事はできず、家庭内では不平等の生活スタイルです。

私は子どもが生まれる前までは残業する事が多かったのですが、子どもが生まれてからは、仕事量はセーブして、家事・育児に時間を取るようにしました。しかし、これでも一日の中で私が子どもと接する時間は、数時間しかありません。

そのせいでしょうか、私が家にいると、子どもは私に付きまといまふ。私が寝ないと子どもたちも寝ないため、自分のやりたい事は諦めて、平日は21時半に布団に入る生活にしました。子どもが睡眠不足になると、学校で居眠りをしたり、トラブルを起こしたりするからです。

こうして、私は子どもと一緒に早く眠り、その分早起きをするようになりました。子どもは私が起きていることに気づくと、早くから起きてくるため、私も子どもに負けていられないと意地をはり、更に早く起きるようになりました。

休日もゆっくりしてられません。子どもたちは休みの日などお構いなしに早起きです。朝食後、掃除や洗濯、庭の手入れをすると、もうお昼前です。大抵、朝食後から動きっぱなしで疲れているので、休憩してから昼食の準備です。午後は買い物をしたり、子どもと公園で遊んだり、図書館へ行ったりすると、あっという間に夕方です。今度は夕食の準備をしないとイケません。自分が動かないと家庭内が回らないため、毎日必死です。

平日	休日
4:45 起床 前日の片づけ	5:30 起床 前日の片づけ
5:00 自分時間	6:00 起床 自分時間
5:30 朝食準備	7:00 朝食準備・洗濯開始
6:00 朝食:子供と食事	7:30 朝食:子供と食事
6:20 洗濯・宿題持ち物確認 自分と次男の支度	8:30 掃除・洗濯・庭の手入れ
7:00 通勤	12:00 ひと休み
8:40 出社:メール確認・準備	12:30 昼食準備
9:00 始業:地盤の評価・電話応対	13:00 昼食
12:30 昼食	14:00 買い物・図書館 公園・散歩
13:30 午前中の続き	17:30 夕食準備
16:50 退社	19:00 夕食:家族が揃う
17:00 通勤	19:45 夕食片づけ・朝食の前準備
18:50 保育園迎え	20:30 入浴
19:00 洗濯物片づけ・夕食準備	21:00 子供と団欒
19:30 夕食:子供と義母と食事。	22:00 就寝
夕食片づけ・朝食の前準備	
20:00 入浴	
20:30 宿題等の確認	
子供と団欒	
21:30 就寝	

図-1 私のタイムスケジュール

5. 私のストレス発散時間

平日も休日も、会社のため、家のために動き回っていますが、私の楽しみな時間があります。それは、早起きで得られる自分時間と通勤時間です。朝食を作る前の30分間は、仕事に必要な知識や資格の勉強時間としています。通勤時間は読書か、疑問点をスマホで調べていることが多いです。完全に家事・育児から分断した思考の時間が、ストレス発散の時間です。子どもが生まれる前までは、通勤時間は苦痛でしたが、育児休暇から復帰してすぐに、自分の好きなことができる貴重な時間という事に気づきました。

6. 家庭での意識改革

私ばかりが家事をやっていますが、これは自分の理想形ではありません。本来はお互い夫婦が家庭内でもフェアに仕事を分担すべきと考えますが、自分の考え通りに上手くいかないのが現状です。母親なら家事や育児のために会社を早く出ることができても、父親が同じようにすることが、今の日本社会では厳しいのではないのでしょうか。女性の社会での活用を推進するとうたうのなら、男性の家庭への進出も必要と考えます。最近子どもたちに家事を手伝わせることも増えました。たまに、「今日ご飯は一切作らない」と宣言し、夫や子供に作らせる日を作っています。子どもたちに、家事は母親だけの仕事ではないと言い聞かせています。少なくとも子どもたちが親になった時には、家事ができる男性像が当たり前になって欲しいと願っています。

(原稿受理 2015.3.30)